

## 平成 22 年度日本放射線化学会各賞の選考結果

平成 22 年度日本放射線化学会奨励賞は「アンジュレータ放射光による真空紫外～軟 X 線領域における自然二色性研究」の研究に対して産業技術総合研究所 田中真人氏に授与されることになった。以下に授賞理由を記す。

田中真人氏の業績は、一貫して放射光を用いた固相アミノ酸の光誘起反応に関するものである。波長領域は真空紫外光-軟 X 線の領域であり、放射線化学初期過程の観点から最重要の領域である。同氏は生命の根源であるアミノ酸の円偏光二色性に注目した。

キラルな分子の右円偏光に対する光吸収断面積は、左円偏光に対するそれとはわずかに異なる。このような光吸収断面積における差を円偏光二色性とよぶ。アミノ酸分子の円偏光二色性を光吸収断面積の大きな上記の波長領域で測定することは、宇宙における物質進化を解明するために必要不可欠である。ところが断面積の差

は、わずかに 1/100 以下であるために、それを高精度で測定することは極めて困難である。田中氏は可変偏光アンジュレータの利用により、それを可能にした。もちろんその業績は光源加速器の進歩に負うところが大きいかもかもしれないが、同氏の貢献もそれに勝るとも劣らないと思われる。まさに光源の進歩と同氏による測定システムの進歩が車の両輪のごとくかみ合って生まれた成果である。同氏はこのような成果を放射線化学討論会において次々と発表しており、本学会の活性化に対する寄与も大きい。入会時期は、1998 年であり受賞資格である“おおむね 5 年以上本会会員として活動し”を満足している。奨励賞としてふさわしいと評価できる。

(平成 22 年度日本放射線化学会各賞選考委員会委員長  
河内 宣之)